

1. プラン全体の概要・特色【観点1③】(400字以内)

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の26のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムである。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることができるよう職種間の共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修を行う。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のファカルティ・ディベロップメントを連動させ、がん専門職養成の教育能力を強化する。こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門職が数多く輩出されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待される。

2. 組織体制の概要

(1) 各コース共通の管理体制等【観点1③、2(1)①】(400字以内)

医学、薬学、看護学などの複雑なコースワークを束ね、8つの大学院と大学病院を結んでプログラム全体を管理、運営するために、本コンソーシアムは運営協議会を設置し、強力なリーダーシップを発揮できる体制を取る。各大学は研究科長、大学病院がんセンター長等をコーディネータの任に当て、コース間ならびに大学間共通のコアカリキュラムを意図した「臨床腫瘍学」の履修、および、大学病院がんセンター等における横断的、集学的治療の研修が円滑に実施されるよう管理する。大学間協力組織であるコンソーシアムには、運営協議会を軸に、連携病院長会議、総合評価委員会などを置いて、カリキュラムの共通化、互換性を図り、ファカルティ・ディベロップメントを推進し、専門職の需給を計り、外部評価をフィードバックしてプログラムの改善を進め、がんの集学的治療、チーム医療を実践できる質の高いがん専門職の養成と中・四国地域における充足に努める。

(2) コーディネータの職名・氏名、プランにおける役割【観点2(3)①②③】

(職名・氏名)

岡山大学：大学院医歯薬学総合研究科研究科長・田中紀章

医学部・歯学部附属病院腫瘍センター長・田端正弘

医学部・歯学部附属病院乳腺・内分泌外科副科長・松岡順治

川崎医科大学：附属病院長・角田 司

附属病院腫瘍センター長・山口佳之

山口大学：大学院医学系研究科研究科長 前川剛志

医学部附属病院腫瘍センター長・岡 正朗

香川大学：医学部附属病院腫瘍センター長・合田文則

医学部泌尿器科学教授・笥 善行

徳島大学：大学院ヘルスバイオサイエンス研究部長・曾根三郎

医学部・歯学部附属病院がん診療連携センター長・古本博孝

愛媛大学：大学院医学系研究科生態制御内科学教授・安川正貴

医学部附属病院腫瘍センター長・薬師神芳洋

医学部附属病院薬剤部長・荒木博陽

医学部附属病院薬剤部薬剤師・井門敬子

高知大学：医学部長・橋本浩三

医学部附属病院がん治療センター長・小林道也

医学部放射線医学講座教授・小川恭弘

医学部附属病院薬剤部長・西岡 豊

高知女子大学：看護学部教授・森下利子

看護学部教授・藤田佐和

看護学部教授・斎藤信也

(役割) (200字以内)

各大学のコーディネータはコンソーシアム運営協議会の委員を務め、またそれぞれの施設内運営組織を通して大学院教育および実地修練計画を統括する。円滑な教育が行われるようにリーダーシップを発揮して各大学・大学院・大学病院・診療科・連携病院間の連携と調整を行う。さらに、教育・研修の実態を把握し、また修了者についてはその後の就労、活動の実績を調査し、必要なプログラムの改善を行う。

3. 養成計画（履修方法）【観点1②③】

(コースごとに記入してください。)(1コースにつき200字以内)

1) がん医療に携わる専門医師養成コース

大学院、大学病院および連携病院にて、臨床腫瘍学会、放射線腫瘍学会等の定める専門医資格の取得を目指して必要な研修項目を履修する。がん化学療法、放射線治療、緩和ケア全ての研修を積み、他職種との協働を通じたチーム医療研修を行う。さらに研究方法論を学び、自ら臨床研究やトランスレーショナルリサーチを行って、その成果により学位を取得する。このようにして次代のがん臨床研究と診療を担う臨床腫瘍医を養成する。

2) がん医療に携わるコメディカル養成コース

薬剤師、看護師、放射線技師、管理栄養士等の資格をもち一定の実務経験を有する専門職を対象とし、日本病院薬剤師会、日本看護協会、日本医学放射線学会の定めた課程を大学院において履修する。さらにはがん治療の基礎、および化学療法、放射線療法、緩和などの臨床腫瘍学を他職種とともに履修し、チームによる実習・研修を行う。各大学院の定めた単位を取得し学位および専門資格を取得する。

3) がん医療に携わる専門医師等の研修（インテンシブ）コース

既にはがん以外の学会認定資格等を取得している医師等を対象に、生涯教育の一環として、がん薬物療法、放射線治療、緩和医療等の最新の知識と技術の習得を促す。また、すでにはがん臨床の経験ある人を対象に、指導的人材の養成も視野に入れて、高度先進的がん医療の情報ならびに実習の機会を提供してがん専門職資格の維持・取得を促し、リアルタイム

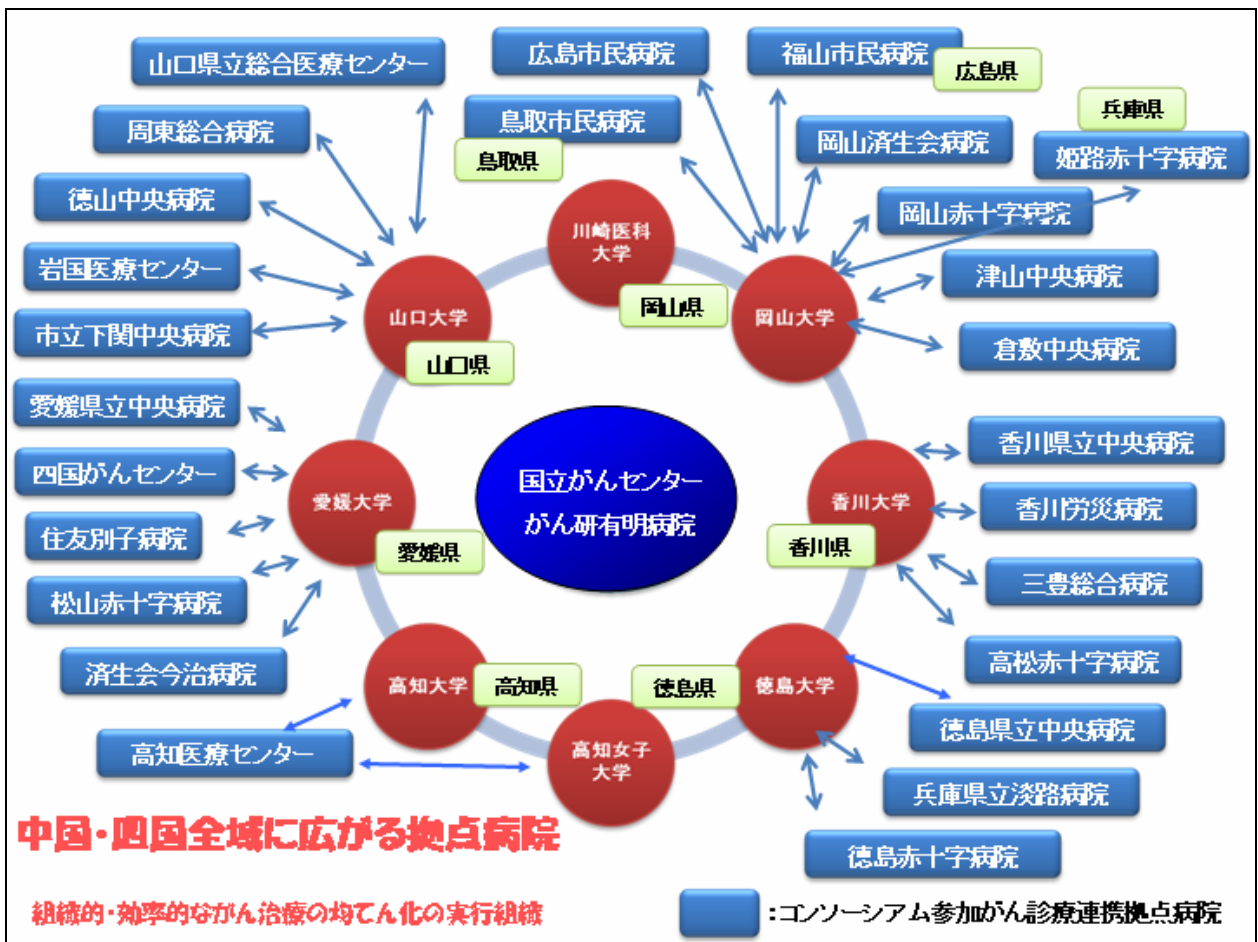
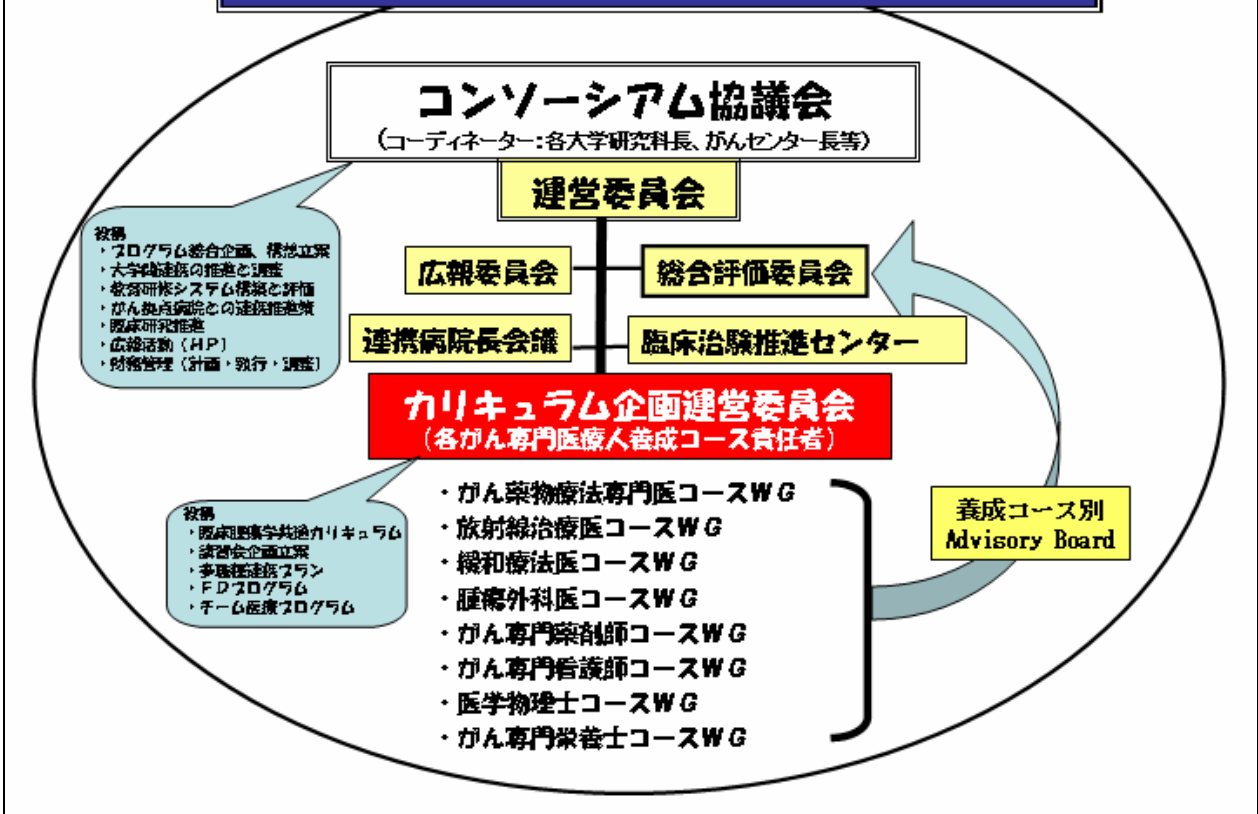
にがん医療水準の向上を図る。

4. 共同申請の場合の大学ごとの役割分担【観点1①】（200字以内）

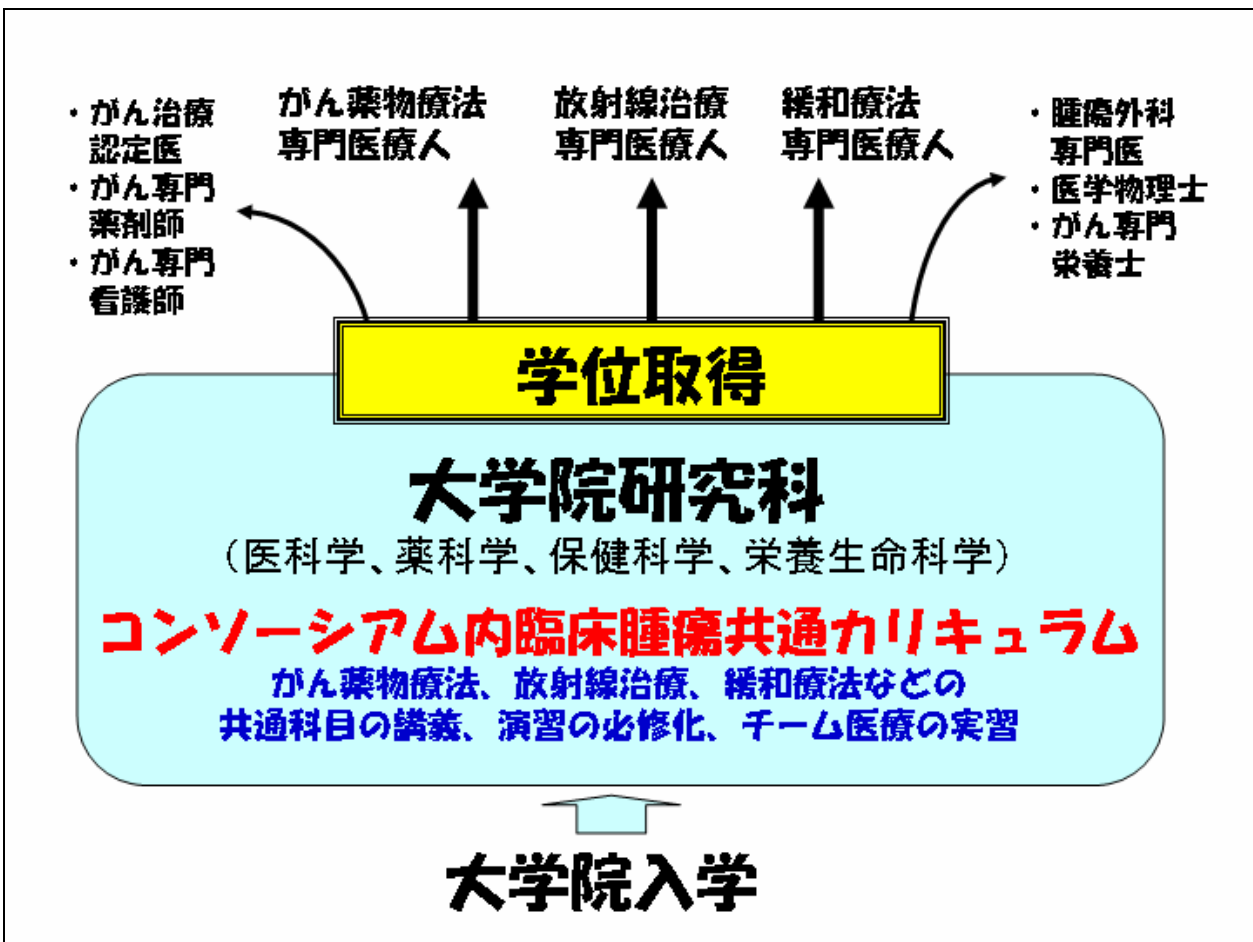
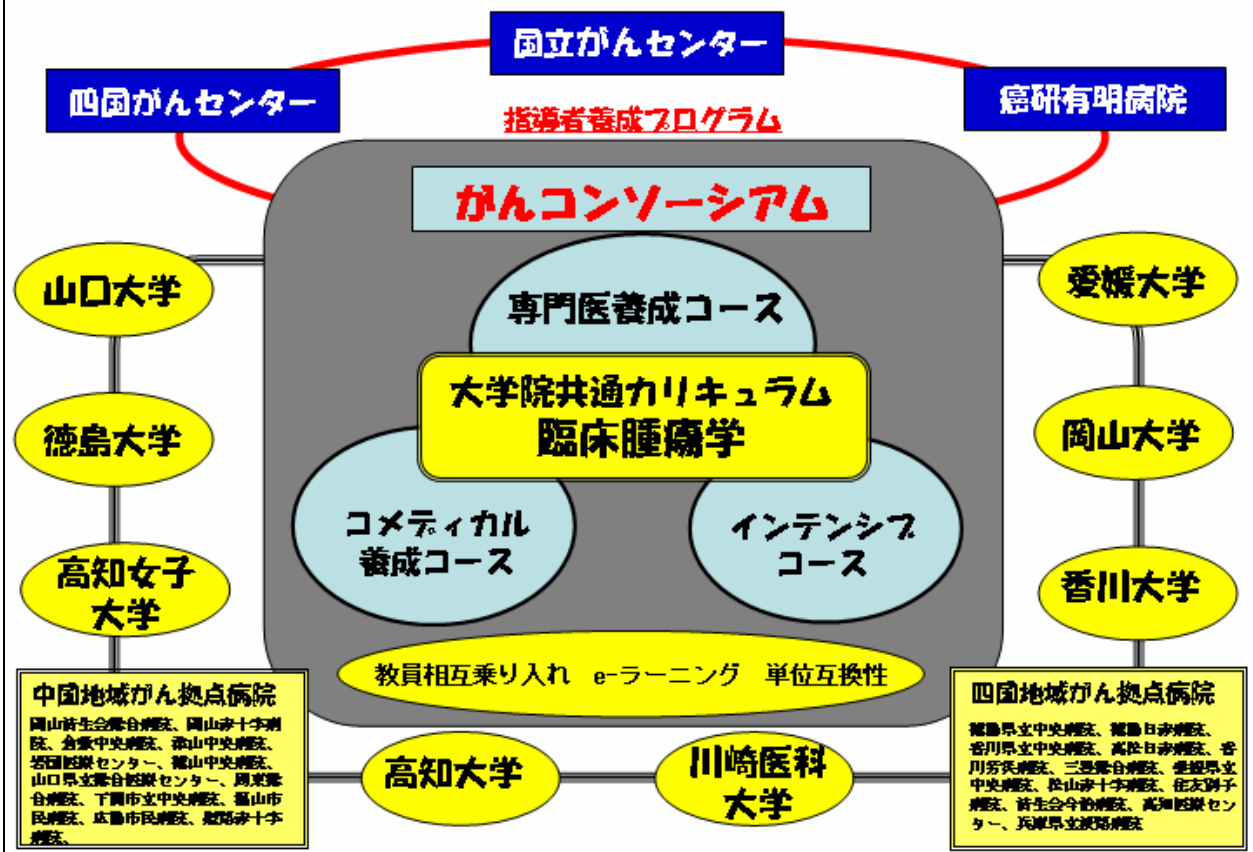
（単独申請の場合は記入不要）

岡山大学は主管校として各大学を取り纏め、事務局をおく。各大学は専門性を生かし各種コースワークの幹事校として他大学と連携してカリキュラムを編成、改善する。がん薬物療法は愛媛と岡山、放射線治療は岡山、緩和医療は香川、腫瘍外科は山口、医学物理士は徳島、がん専門看護師は高知女子、がん専門薬剤師と栄養管理士は徳島、さらに在宅がん医療を高知、がん医療の生涯教育を川崎医科大学が担当する。

中国・四国がんコンソーシアム



中国・四国広域がん専門医療人養成プラン

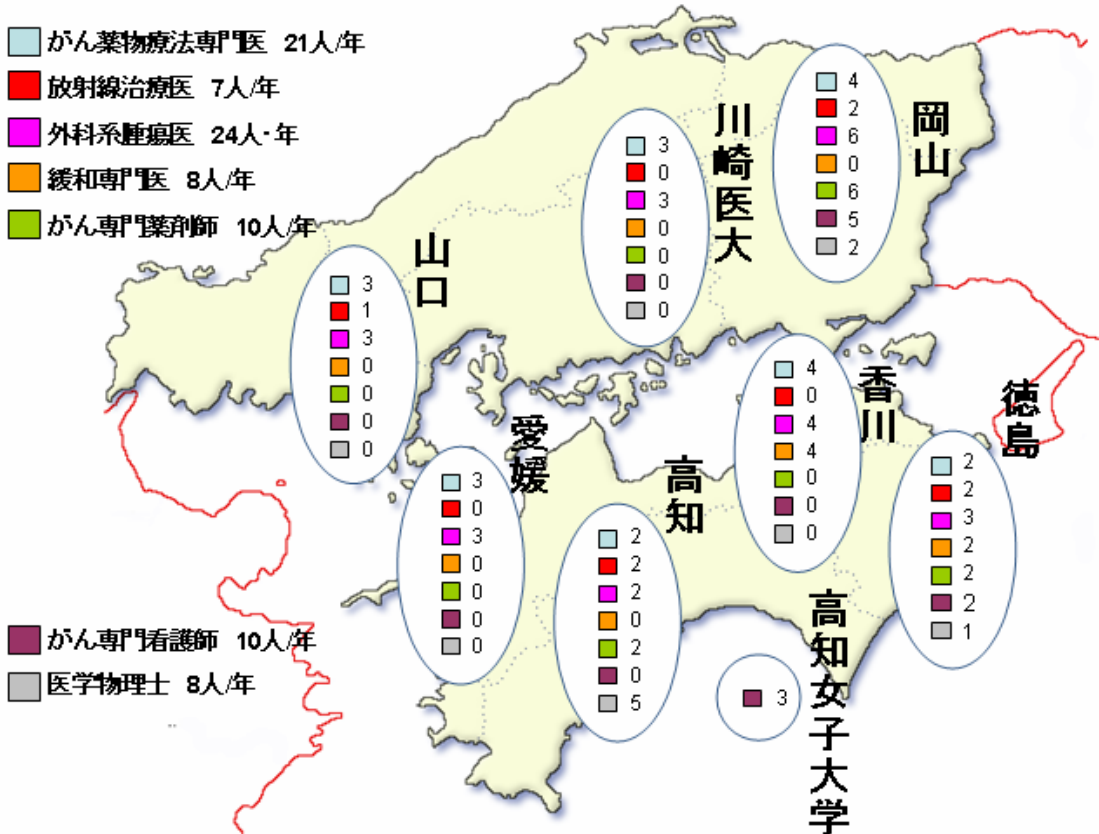


大学院がん専門医療人養成コースと施設名

	愛媛大	岡山大	香川大	川崎医大	高知女子大	高知大	徳島大	山口大
がん専門医療人養成コース								
・がん薬物療法専門医コース	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
・放射線治療医コース		◎				◎	◎	◎
・緩和療法医コース			◎				◎	
・腫瘍外科コース	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
・がん専門薬剤師コース		◎				◎	◎	
・がん専門看護師コース		◎			◎		◎	
・医学物理士コース		◎				◎	◎	
・がん専門栄養士コース							◎	

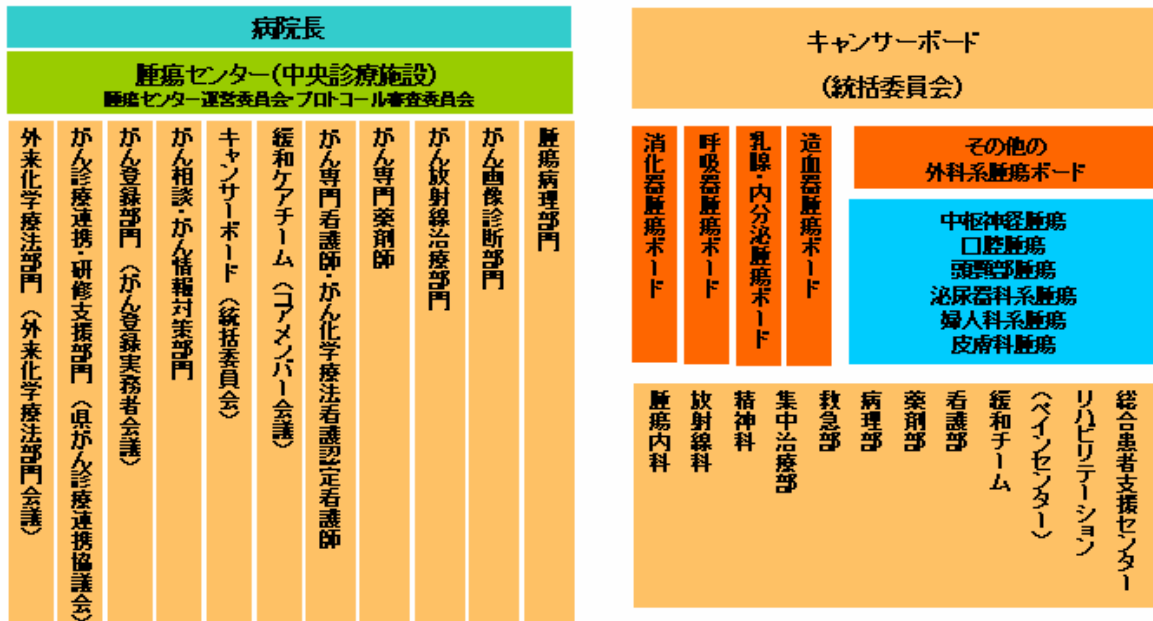
◎ : カリキュラム作成幹事校

コンソーシアムで養成するがん専門医療人(大学院)



院内腫瘍センターとカンサーボード

診療科と専攻を越えたチーム医療を目指して



「チーム医療を担うがん専門医療人育成プラン」年度実施計画

参加大学の特性、専門性を生かした大学院を軸に、メディカル、コメディカルのがん専門医療人養成コースを設定し、共通カリキュラム[臨床腫瘍学]を必修させ、大学病院がんセンターでの演習 (Cancer Board、外来化学療法センター、緩和ケアチームなど) への参加を多職種によるチーム医療として役立てる。また、臨床研究方法を理解し実践できる人材を育成し、地域でのがん診療の均てん化に役立てる。

中国・四国広域がんコンソーシアム形成

養成コース共通カリキュラム(臨床腫瘍学)の作成

